

授業改善等に関する報告書（2020年後期）短期大学部

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2020（後期）短大共通] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
日本語表現法 a（英コミ④）	鹿島 千穂	まとまった量の文章の要約は、苦手意識を持っている人が多く、苦戦している様子がうかがえました。だからこそ、「授業を通して成長を実感できた」という学生が多かったことを嬉しく思います。 授業外での学修時間が比較的少ないようなので、次年度以降は課題の出し方を工夫したいと思います。
Integrated English b(⑥)	三田 薫, ワインダー, グレゴリー・ジョン	インテグの後期日本人教員授業は、新たな挑戦がたくさんありましたが、皆さんがグループで協力して頑張ってくれたことがわかります。「説明がわかりやすかった」「授業に満足した」など、平均を上回っていたことをうれしく思います。
Integrated English b(⑦)	レビー, ロバート・C, 久保田 佳枝	このクラスの学生のみなさんの多くは、おそらく英語に対して苦手意識を持っている人が多かったと思います。にもかかわらず、英語4技能向上に向けたグループ学習において、皆さんよく頑張っていたことは理解しています。日コミの学生さんは当該授業のみが短大時代で唯一の英語ですが、一年を通して学んできた高校までの英語授業とは全く異なるスタイルと内容を忘れずに今後の皆さんの将来にお役立ていただけますことを期待いたします。
Integrated English b(①)	霜田 敦子, レビー, ロバート・C	前期に引き続きzoomによるオンライン授業のうえ、やる事がたくさんある授業でしたので、せわしなく授業を進行しているのではないかと心配していました。でも、問6. 授業のスピードは適切でしたか、の項目で90%を超える学生が「とてもよく、どちらかと言えば」あてはまる、と答えているので本当に安心しました。 zoom、パワーポイント、miro、といった新しい機能を覚えるのは大変だったと思います。そんな中、クラスの皆さんが真剣に取り組みグループで協力してくれたため、何とか最後まで授業の目標を達成することができました。私をいろいろな場面でサポートして下さい、いつも快く協力して下さったことに心から感謝しています。
女性とライフサイクル	西脇 智子	オンデマンド授業という新しい授業方法に取り組みましたが、多くの項目で平均を上回り、工夫したわかりやすさへの評価が得られたことは大変嬉しく励みになりました。とくに高評価を得られた部分については、次年度以降も工夫して取り組んでいければと思います。
文学 b	高瀬 真理子	特別授業を入れて、双方向と対面両方という授業形態でした。 進度は、どうしても対面よりゆっくりになったかと思えます。 また、小説の作品内容と絵画を合わせるところで、技術的に上手くいかないところがありました。 データの取り込みはかなりできたので、この先の工夫をしたいと思えます。
オープン講座④	村山 真一	数式に対して、苦手意識を払拭し、慣れ親しむという目標はほぼ達成されたのではないかと思う。ふつうに自然に考え処理すればよいということが十分に伝わったと思う。ただ、学習時間が少ないのが残念です。課題などを増やし学習時間を増やすような工夫をしていきたいと思う。
日本語表現法 b	佐藤 辰雄	漢字・諺・言葉遣いなどの小テストの場合については、当初は易しい問題なので20分でmanabaの画面を閉じたが、学生の要望で提出期間を2日間に延長したりして対応しました。 小テスト課題が負担だったのか、Q2の予復習時間が他科目の倍以上長い結果となりました。 Q10の「声の聞き取り易さ」が低評価だった理由は分かりません。他の科目では平均かそれ以上だったので、機械的な原因ではないかと思われれます。 Q14の自己採点が3.38と低いのは毎回のフィードバックによるのかもしれないと考えられました。
オープン講座⑤	板倉 文彦	本授業は就活に関連する内容であり、コロナ禍の影響を受け講義の一部や学生の受講に関して、対面とオンラインが入り混じる状況となった。そのため学生の皆さんが満足感を持って受講できるか心配であったが、大きく平均値を下回るような評価は無かった。 しかし、授業スピードや質問のしやすさでは平均値を下回る評価となっており、万一今後もオンライン授業となってしまった場合は、特に留意する必要があることを認識した。
文学 c	横田 順子	学生の皆さんが前向きに積極的に参加して下さったことに感謝します。ほぼ同じ内容の授業原稿と、音声つきパワーポイントと、動画の3種類を用意したので、おのおの受けやすいツールを選んでもらえたものと思います。今後、授業内容の向上とともに、パソコンやシステムの習得にも努め、もっとコミュニケーションがとれるようにしたいと思います。

[2020 (後期) 短大共通] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
暮らしと環境	西脇 智子	オンデマンド授業という新しい授業方法に取り組みましたが、平均を上回る項目もあり、工夫したわかりやすさに対する高評価が得られたことは大変嬉しく励みになりました。高評価を得た部分については、次年度以降も工夫して取り組んでいければと思います。
日本語表現法 a (英コミ③)	久池井 紀子	説明が聞きにくかったとの由、すみませんでした。オンデマンドでは、皆さんの反応を見ながら対応をすることができず、皆さんとしても言いにくかったのではと思います。今期は、資料の理解や課題の提出など大変だったでしょうが、最後まで皆よく頑張ったと思います。また、今学期に学んだことがすぐ芽を出すとは限りません。諦めずに折に触れて言葉遣いを意識することで、さらに語感を磨きましょう。
フランス語 b	岡本 尚子	前期に引き続きオンデマンドを中心とした授業を行いました。今学期は月1回発音練習の時間を設けましたが、皆さん積極的に参加していて感心しました。引き続きフランス語の勉強を続けたいという人も多く、とてもうれしく思っています。まだまだ勉強することはたくさんあり、難しいと思うことも増えてくると思いますが、あきらめずに続けて勉強していけば必ずわかるようになりますので、ぜひ今後もフランス語の勉強を続けていただければと思います。
日本語表現法 a (英コミ①)	鹿島 千穂	まとまった量の文章の要約は、苦手意識を持っている人が多く、苦戦している様子がかがえました。だからこそ、「授業を通して成長を実感できた」という学生が多かったことを嬉しく思います。授業外での学修時間が比較的少ないようなので、次年度以降は課題の出し方を工夫したいと思います。
日本語表現法 a (英コミ②)	佐藤 辰雄	日本語表現の熟達を目標とする本科目であれば、Q13 の更に学びたいかが3.33と低いのは、受講生が他専門の英コミ学生故に止むを得ないところもあるろうか。グローバル化時代だからこそ世界で活躍する視点を持ち、自国の言語や文化・歴史を重視するか否かは学生個人の資質に関わるだろうが、学科の教育方針に沿う意識がどれほどあるのかについて、はなはだ心もとない気がする。安定して勤勉な姿勢で課題に取り組む学生と、課題非提出＝欠席学生との落差が両極に分かれた点が残念であった。
社会心理学	大倉 恭輔	オンデマンド型ということで、お互いにやりにくかったですよ。あまり多くの話題を出しても消化しきれない感じがあったので、教材DVDの内容を整理した資料を読んでもらうことで対応してみました。ただ、質問が出なかったのは予想外でした。今後、オンデマンド型授業を担当する場合は、こちらからの働きかけを強めていこうと思います。